

## 平成 25 年度 第 1 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

日時	2013 年 4 月 23 日 (火) 18:15~21:00	
場所	滋賀県庁北新館 4B 会議室	
出席者 (50 音順、 敬称略)	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	伊吹美賀子	琵琶湖流域ネットワーク委員会
	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	川端 隆弘	公益財団法人 淡海環境保全財団
	北田 俊夫	NPO 法人 びわこ豊穰の郷
	小林 泉	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
	関 慎介	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	三和 伸彦	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	村井 洋一	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	村上 悟	NPO 法人 碧いびわ湖
	廣田 大輔	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	山口美知子	滋賀地方自治研究センター
渡辺 維子	元：公益社団法人滋賀県環境保全協会	

※今回欠席(敬称略)：中野隆弘(びわ湖エコアイデア倶楽部)、野田晃弘(NPO 法人蒲生野考現倶楽部)、堀彰男(滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会)、松沢松治(びわ湖の水と地域の環境を守る会)

### 今回の決定事項(要約)

- ・ 県内各地で実施されている活動を ML21 計画に位置づける作業を進める必要がある。そのためのフォーマットや手続きを早急に確立し、共有する。
- ・ 今年度のびわこ会議は、8/31(土)を第一候補とする(その後決定)。具体的な内容については、少人数のワーキングで案を詰めた後、次回運営委員会で議論する。
- ・ 具体的な地域での活動をつなぐため、環境省の「平成 25 年度 地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」に申請し、採択されれば運営委員会としてサポートすることについて承認された。

### 1. これまでの経緯の振り返り

今回は、新規のメンバーや数回ぶりに参加したメンバーが複数いたため、これまでの経緯について振り返り、共通認識を持つところから開始した。佐藤より、2012 年 10 月以降の運営委員会および関連会合の経緯について説明を行った後(詳細は過去の議事録を参照のこと)、参加者より以下の追加情報があった。

- ・ 2013/4/1 に(株)平和堂の CSR 担当部局を訪ね、マザーレイクフォーラム(以下、MLF)と企業との連携の方法などについて協議を行った(詳細は村上氏作成の議事録を参照のこと)。
- ・ 2013/4/21 に滋賀県庁の化学・環境行政職員の集まり「化環会」の総会があり、そこで化環会としてマザーレイクフォーラムに関わっていくことが了承された。異動に左右されず、継続的に行政の職員が関与できる一つのモデルになることが期待される。

## 2. 今後のマザーレイクフォーラムの進め方について

びわコミ会議の詳細について検討する前に、これまで議論になってきたマザーレイク 21 計画(以下、ML21 計画) への活動の位置づけ方法などについて話し合われた。参加者より出された主な意見は以下の通りである。

- 琵琶湖流域ではすでに様々な活動が行われている。これを ML21 計画に位置づけることには、以下のような意義がある。
  - 各活動を進める団体・個人が、自らの活動の計画における意義や役割を認識することができる。
  - ML21 計画の中で活動を進めているという認識を持つことができる。
  - ML21 計画を、行政だけではない「みんなの計画」にすることができる。それがあって初めて、市民による計画の評価および進行管理が可能となる。これまでは、「計画がまず在りきで皆で議論しよう」という意識を強く持ちすぎた側面があるので、より長い時間スケールで捉えていく必要がある。
  - 位置づけ作業の中で、すでに実施されている活動で計画にないものが見つかったり、逆に計画にはあるが活動には至っていない内容などが見つかったりするだろう。これ自体が計画の評価(チェック)とも言える。
- ML21 計画への位置づけ方法としては、以下のようなものがある。
  - まずは、運営委員会の各メンバーの活動を位置づける。
  - 外部で ML21 計画などについて話をする際、アンケートを実施し、計画に位置づけられる参加者の活動を提案してもらおう(佐藤が試みとして「みずすましネットワーク交流会」で実施)。
  - 県内の流域協議会の構成メンバーに聞きに行く。
  - 運営委員会の各メンバーのネットワークを活かし、営業活動を行う。
  - 位置づけられた内容はプラットフォームに反映され、それが様々な軸から検索できるとよい。
- ML21 計画への位置づけ作業を進めていくためのフォーマットや手続きを確立していく必要がある。
  - シナリオ研究会の市民ワークショップで作成した図が、一つのベースになりうる。
  - 例えば東近江市では、様々なセクターの集まり「魅知普請」が、各活動やつながりを一目で見られる「東近江市地域曼荼羅図」を作成している(別紙参照)。ここには、①人にぶら下がらない(もちろん行政にも)、②プラス思考で考える(人をけなさない、批判しない)、③つながることのおもしろさを知っている(上から目線で人を見ない)という3つのルールを満たすグループだけが掲載されている。この図は様々な活用されている。(北川憲司資料参照：<http://www.pref.shiga.lg.jp/b/shichoson/chiikidukuri/kenkyuukai/files/17kaigiroku.pdf>)
- 学術フォーラムとびわコミ会議の役割について。
  - 琵琶湖の評価を人の健康評価に例えるならば、学術フォーラムは「医者の見立て」、びわコミ会議はそれを参考にして実際の治療を決める手続きと考えられる(医者の見立てが常に正しいとはかぎらない)。
  - 医者の見立てと一般の見立てはギャップがあることもある。それが確認できる場があるとよ

い。

- ▶ 評価をどのように分かりやすいデザインで表現するかも、とても大事である。
- ・ 何らかの活動に関わっていなくても、生活の中で少し工夫した経験や、色々な体験活動の経験などはある。そういうものも計画との関連が分かることで、その人を元気づけたり、巻き込んだりできるとよい。
- ▶ 必ずしも環境保全に直接関与している必要はない。ML21 計画には暮らしの軸も含まれており、そういう意図が活動等の主催者に理解してもらえば広がるのでは。

### 3. びわコミ会議の日程・今後の協議の進め方について

- ・ 日程については、会場の都合から、8/31（土）を第一候補、8/24（土）を第二候補とする。後者については県内各地で地蔵盆が開催されるため、極力避ける。
- ・ 場所はコラボ 21 をおさえておくが、その他滋賀県立大学の交流センターや、県庁での開催なども検討する。
- ・ 今後の協議の進め方について、まずは早いうちに少人数で複数のアイデアを検討する。それを5月中～下旬の運営委員会で詰め、6月中旬の運営委員会では内容をフィックスする。7月上旬には広報する。

### 4. 助成金への申請について

運営委員会として、びわコミ会議の運営のみならず、例えば地域の活動をつなぐ役割を果たすことの必要性がこれまでの議論で挙がっている。そのために、まずは環境省が実施している「平成 25 年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」への応募を検討しており、これまで村上氏、井手氏、川端氏、望月氏、佐藤等で検討を進めてきた（別紙参照）。

その内容について佐藤より説明を行い、申請を提出すること、および採択された場合には運営委員会としてサポートしていくことが了承された。

